

教科名 国語

	昨年度の授業改善推進プランの内容や今年度の授業評価アンケートの内容、日々の授業等を踏まえた今年度の成果	今年度の授業評価アンケート、日々の授業等を踏まえた今年度の課題	今後に向けた改善策
一年	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に意欲的な生徒が多い。毎時間や単元の目標を意識した上で学習に取り組むことができている。 ・授業評価アンケートの結果から、「授業は楽しいですか」の項目で「はい」と答えた人が80%と高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」の分野に不安が見られ、小学校配当の漢字も含めて漢字指導に力を入れる必要がある。 ・授業評価アンケートの結果から、「わかった、できたという達成感・満足感」の項目で「はい」と答えた人が56%しかいなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」を身につけさせるために、辞書やプリントを活用した学習や、漢字の小テストなどで語彙の定着を図る。 ・スモールステップを用意して段階的に課題をクリアさせたり、発言・発表の機会を増やしたりして、生徒の達成感・満足感の向上を図る。
二年	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期末に行った授業アンケートにおいて、85%の生徒が目標、流れを把握して授業に取り組んでいることが分かった。 ・話し合い活動や説明し合う活動を取り入れたことにより、教師が一方的に講義する形を脱し、生徒自らが考え実践する授業になった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5分以上の振り返りを確実に行うことが不十分で、授業アンケートでも61%の生徒しか「はい」と回答しなかった。 ・課題に対して取り組む際、すぐに他人の考えを頼りにしようとする生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の5分間の振り返りは記述式のもの、単語で単発で答えさせるものを用意し、多角的に考えることができるようにする。 ・机間支援を丁寧にし、勇気づけ言葉を用いつつ適切な指導をしてやる気を向上させる。つまづきのある生徒に対しては、例えばヒントを出してまずは自分で考えさせる習慣をつけさせる。
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートで「目標・流れを伝える」「考えを発表する機会がある」項目で90%以上が達成され、目標の提示や発表・話し合い活動を普段から取り入れた結果と思われる。 ・全国学力学習状況調査では「読書が好き」と答えた生徒が都平均を上回り、朝読書の成果がみられた。「国語が好き」「授業が分かる」と答えた生徒も都平均を上回った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートで「振り返り」「達成感」項目が76%であり、振り返りをしているが生徒には認識されていない・低学力の生徒が達成感を感じられていない現状がある。 ・全国学力学習状況調査では正答率が都平均-6%、漢字や表現技法で多く失点しており、基本的な知識が定着していない。また、思考力を要する問題の正答率も低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の既習事項の反復や解説補足等、生徒がわかりやすい形での振り返りを工夫する。机間指導や個別での声掛け等、低学力の生徒への支援を今以上に意識する。 ・入試対策も含め、漢字や知識事項の復習を徹底する。実践問題での演習を取り入れる。単元の取組で、思考力を要する活動を増やすよう設定し、より深い学びを目指す。

教科名 社 会

	昨年度の授業改善推進プランの内容や今年度の授業評価アンケートの内容、日々の授業等を踏まえた今年度の成果	今年度の授業評価アンケート、日々の授業等を踏まえた今年度の課題	今後に向けた改善策
一年	<ul style="list-style-type: none"> 「授業のユニバーサルデザイン化」を意識して教材提示の工夫や構造化された板書を取り入れたことで、多くの生徒が興味関心をもって授業に取り組んでいる。 積極的に発言したり多様な意見が出たりするなど、前向きな姿勢が目立つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 本校独自の授業評価アンケートでは、「授業が楽しいか」「授業がわかりやすいか」「発表の機会が与えられているか」などの項目に概ね肯定的回答が多かった。しかし、「授業のまとめ、5分間の振り返りをしていますか」の項目については他の質問項目に比べ若干低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元ごとの振り返りだけでなく、毎授業の振り返りの時間を確保していく。 タブレットPCの効果的な活用をさらに推進していき、社会的な見方・考え方を働かせて社会的な事象について考察ができるようにしていく。
二年	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学び、思考力を高める授業プランを練り実践した。 毎回の授業時に班で課題探求調べ学習や討論を、タブレット、スライド、ジャムボードなどを使い、発表した。生徒は意欲的に取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業のまとめ、5分間の振り返りをしていますか」の質問項目が低かった。また発表する内容について構造的にわかりやすくまとめてプレゼンテーションを行うことに課題が見受けられた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、まとめの振り返りを、本時の既習項目の発問を挙手制で行うなど、生徒の次時へのモチベーションを高める工夫をしていく。 2学期以降は、夏季宿題の、地歴個人新聞スライド発表などを行い、生徒の主体的な探求意欲を高め、発表を通しプレゼンテーション能力を高める援助をしていく。
三年	<ul style="list-style-type: none"> 導入資料の提示から習課題を見出し、本時の目標を明確にして授業を行った。 タブレット PC を活用した発表資料の作成を積極的に行い、学習内容を結び付けた深い学びの実践を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートでは、どの質問項目においても97%以上が肯定的回答であった。しかし、他の項目に比べて「授業のまとめ、5分間の振り返りをしていますか」の質問項目に対する肯定的回答が若干低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> まとめや振り返りの時間を明確に確保していく。また、より一層主体的に学習活動に取り組めるような課題の工夫や、基礎的基本的な事項の定着を図れるような繰り返しの問題演習等を必要に応じて取り入れていく。

教科名 数 学

	昨年度の授業改善推進プランの内容や今年度の授業評価アンケートの内容、日々の授業等を踏まえた今年度の成果	今年度の授業評価アンケート、日々の授業等を踏まえた今年度の課題	今後に向けた改善策
一年	<ul style="list-style-type: none"> アンケートでは91%の生徒が「まとめ・5分の振り返り」に肯定的な回答をしている。 アンケートでは100%が「生徒の考え・活動・頑張りを認めてくれているか」に肯定的な回答をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケートでは14%の生徒が「わかった・できたという達成感があるか」に否定的な回答をしている。 アンケートでは26%の生徒が「自分の考えを発表する機会が与えられているか」に否定的な回答をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のまとめは継続して行い、その質をあげるために、全体共有する時間をとりたい。 自分の考えを発表する機会は、全体での挙手や指名が多いので、機会を増やすためにグループ活動を取り入れる。
二年	<ul style="list-style-type: none"> 授業はじめに基本の問題を解くことを継続して行っていることで、わからないところの確認や基本的な計算が定着してきている。 昨年度5分間の振り返りができていなかったが、今年度のアンケートでは9割の生徒が振り返りができていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学力の二極化が進んでいると感じる。苦手と感じている生徒や、算数段階での内容につまづきを感じている生徒の対応が課題。 「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法について、さらなる周知が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 標準クラスを中心に復習や問題演習の時間を確保し、定着に向けて取り組む。 生徒の取り組みと評価とが結びつくように、各クラスを回って説明する。
三年	<ul style="list-style-type: none"> 授業に対して熱心に取り組む生徒がこれまで以上に増えている様子が伺える。また、計算問題を中心に、多くの生徒が基礎を定着させることができている。 前期授業評価アンケートでは、全項目において昨年度より「はい」よりの回答の割合が増加した。授業の「導入→展開→ふりかえり」の流れの確立や、きめ細やかな机間指導、ICT機器の活用などが主な要因としてあげられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力到達度が極めて高い生徒とそうでない生徒の二極化が顕著である。標準コースと発展コースの2コースによる習熟度別クラスを展開しているが、標準コースの中でも学力の差がかなりある。 「令和4年度 全国学力・学習状況調査 中学校 数学」では、全国平均より7.4ポイント下回り、これまでに引き続き、全国平均を下回る結果となってしまった。その中でも特に、思考・判断・表現の観点の問題に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人一人が授業で置いて行かれたり、また、退屈な時間を生み出させたりしないように、つまづいている生徒には手厚い支援を、得意な生徒には補充問題を用意するなど、個に対応できる授業展開をしていきたい。 全国学力調査では、A層の少なさも気になった。C、D層の底上げのみならず、A、B層の実力も向上していけるように、発展レベルの問題演習を充実させていきたい。

教科名 理 科

	昨年度の授業改善推進プランの内容や今年度の授業評価アンケートの内容、日々の授業等を踏まえた今年度の成果	今年度の授業評価アンケート、日々の授業等を踏まえた今年度の課題	今後に向けた改善策
一年	<p>理科Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業に楽しさを感じていない生徒が20%程いることがわかり、興味深い内容にしていく必要性を感じた。 <p>理科Ⅱ</p> <p>授業は楽しい →はい (78.8%) →どちらかといえばはい (17.6%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果より、前向きに取り組める授業づくりができていていると考えられる。 	<p>理科Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかった、達成感があるについての肯定的回答は72.4%と低い。密度の計算がわからなかったと思う生徒をそのままにしてしまった。理解を深める練習が少なかった。 <p>理科Ⅱ</p> <p>授業はわかりやすい →はい (66.7%) →どちらかといえばはい (25.0%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はいの割合が75%に至らない。 ・授業は前向きだが、「わかる楽しさ」に繋がっていない。生徒が思考力を働かせ、理解を深めるような活動が少なかった。 	<p>理科Ⅰ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークの活用を授業中でも行い理解の定着につなげていく。楽しく取り組みつつテストでも点数が取れるように工夫をしていく。ICTの活用で振り返りの力を入れていく。 <p>理科Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の個人結果が目標より低く、中学での学習内容を難しく感じている生徒が多い印象がある。生徒が達成感を味わえるように、授業の発問構成について工夫したい。 ・グループワークを増やし、教え合い活動を促したい。
二年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のまとめ、5分間の振り返りを行っている→はい (40%)、どちらかといえばはい (50%) 昨年度より振り返りの時間をとるようにしているので、肯定的回答が増えた。はいが増えるようにICTで工夫をしていきたい。 ・実験の実施ができたおかげで楽しいと感じている生徒が多いことがよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はわかりやすい→はい (35.9%)、どちらかといえばはい (56.3%) 肯定的回答の合計は90%にいくが、はいの回答は低かった。化学の単元の計算問題を苦手とする生徒が多かったのが理由と考えられる。 ・応用問題に時間をかけるより基本問題の練習をやる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の目標に即した振り返りの時間をとり、フォームを使って理解の様子を知ること、その時間内で補足などををしていく。 ・ICTを利用することで意見の集約などを工夫し、発表の機会を増やしていく。そこから思考する時間につなげられるようにする。
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・授業のまとめ、5分間の振り返りを行っている→はい (76.5%)、どちらかといえばはい (21.0%) ・生徒の考え、活動、頑張りをお認めている→はい (74.1%)、どちらかといえばはい (24.7%) ・授業評価アンケートの結果より、生徒は概ね、担当の教科指導に沿って、ねらい通りの学習をすすめることができていると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業はわかりやすい→はい (67.9%)、どちらかといえばはい (32.1%) ・はいの割合が75%に至らない。指導方法については、左記の通り問題ないが、学習内容の定着に不安があると見られる。問題演習や類題に取り組むことが少なかったため、本当にわかったのか自信がもてなかったと考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5分間の振り返りの際、「自由記述」「質問・意見・改善」を書くことが中心の指導になっていたが、「確認問題」「類題」を増やし、学習内容が身についたことを確認させたい。確認問題は、家庭学習で活用できるように、繰り返し利用できるような工夫をする。

令和4年度 昭島市立多摩辺中学校 授業改善推進プラン

教科名 音楽

	昨年度の授業改善推進プランの内容や今年度の授業評価アンケートの内容、日々の授業等を踏まえた今年度の成果	今年度の授業評価アンケート、日々の授業等を踏まえた今年度の課題	今後に向けた改善策
一年	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業評価において、すべての項目で肯定的に回答する生徒が多かった。 小学校高学年では、歌唱はほとんど出来ていない様子で、歌唱を苦手と感じるような生徒も多いが、課題に対して、前向きに活動をしたり規律を守ろうとしたりする姿勢ができてきた。 タブレットを使ってふり返しをすることで、課題に対して視覚的にも丁寧にアプローチすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業は楽しいか→はい 50.5%、分かりやすいか→はい 51.6%、達成感・満足感はやじるし→はい 51.6%という結果で、どちらかと言えばはいを含めると過半数になるが、はいの割合だけで75%には至っていない。 自分の考えを発表する機会については、はいが 35.5%と非常に低かった。全員の前での発表はなかなかできなかった。 歌に対しての抵抗感がある生徒が多く、小学校の時のような合奏はできないので、歌唱に対して前向きに取り組めない生徒が各クラスに一定数いることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> リズムや創作については、学力に差があり、基礎的な知識の定着が、授業の達成感や満足感や、分かりやすい授業という認識につながるように繰り返しの基礎定着をしていく。 目標やふり返しを毎回黒板に書き、タブレットでふり返しシートを行っているが、それでもふり返りの数値が低く、ふり返しへの意識をしっかりと持たせることが必要だと考える。 全体を通して、1年生に関しては特に、達成感や楽しさを感じさせる活動をするためには、より丁寧にスモールステップの活動を積み重ねていく必要を感じた。理解を深めるために時間をかけた丁寧な指導をしていく。
二年	<ul style="list-style-type: none"> 1年後期のアンケートと比較して、全質問項目において、肯定的な回答のパーセンテージが増えた。 授業に対して、意欲的に取り組み続けられる生徒が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業評価において、「自分の考えを発表する機会が与えられているか」という項目が、他の項目と比較すると、肯定的な回答の割合が低い。 「先生の授業は分かりやすいか」の問いに対して肯定的な回答が多いが、期末考査ではテストの成果が振るわない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が「自分の考えを発表する機会が与えられている」と感じる授業にするために、生徒同士が意見を交換したり、全体の前で発表したりする機会を積極的に増やし、もっと対話的に授業が展開できるようにする。 期末考査前に、プリントや教科書の復習時間を授業内に設ける。
三年	<ul style="list-style-type: none"> 2年後期のアンケートと比較して、全質問項目において、肯定的な回答のパーセンテージが増えた。 授業の目標を理解し、昨年度よりも意欲的に取り組もうとする生徒が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業評価において、「自分の考えを発表する機会が与えられているか」という項目が、他の項目と比較すると、肯定的な回答の割合が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が「自分の考えを発表する機会が与えられている」と感じる授業にするために、生徒同士が意見を交換したり、全体の前で発表したりする機会を積極的に増やし、もっと対話的に授業が展開できるようにする。

教科名 美術

	昨年度の授業改善推進プランの内容や今年度の授業評価アンケートの内容、日々の授業等を踏まえた今年度の成果	今年度の授業評価アンケート、日々の授業等を踏まえた今年度の課題	今後に向けた改善策
一年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の図工との違いを教科書や資料集から導き出し年間の取り組む内容の見通しをつけた。 ・ 授業規律を守り取り組もうとする生徒もみられるが内容を把握できにくい生徒も見受けられる。 ・ 時間の中で意識して主体的な制作活動が出来る生徒が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題材によって主体的に作業に取り組めない生徒に対し、より意欲的に取り組めるよう個々に言葉がけするなどの指導が必要である。 ・ 思考、判断、表現においても技能においても個々の生徒によって差が生じている。 ・ まとめ時間や生徒の発言を引き出すようにさらに工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制作における技術的な部分をスモールステップで具体的な段階を追って身に付けられるよう指導をする。 ・ 具体的な思考方法を複数提示し、個々に合った方法で取り組ませる指導の工夫を行う。 ・ 自分の考えを言葉でまとめ、思考力・表現力を育成する指導を行う。 ・ 作品の題名も作品の一つととらえ指導を行う。 ・ 校内での作品展示と合わせて、学校以外の作品展やコンペに取り組むことで、制作意欲を引き出せるよう指導を行う。
二年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業規律を守り意欲的に取り組もうとする生徒が多くなりみられるようになってきた。 ・ 時間の中で意識して主体的な制作活動が出来る生徒が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 題材によって主体的に作業に取り組めない生徒に対し、より意欲的に取り組めるよう個々に言葉がけするなどの指導が必要である。 ・ 思考、判断、表現において個々の生徒によって差が生じている。技能においては、質の向上の必要がある。 ・ まとめ時間や生徒の発言を引き出すようにさらに工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制作における技術的な部分をスモールステップで具体的な段階を追って身に付けられるよう指導をする。 ・ 具体的な思考方法を複数提示し、個々に合った方法で取り組ませる指導の工夫を行う。 ・ 自分の考えを言葉でまとめ、思考力、表現力を育成する指導を行う。 ・ 校内での作品展示と合わせて、学校以外の作品展やコンペに取り組むことで、制作意欲を引き出せるように指導する。
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業規律を守り意欲的に取り組む生徒が多い。 ・ 授業時間の中で意識して主体的な制作活動ができる生徒が多くいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動内容によって主体的に作業に取り組めない生徒に対しより意欲的に取り組めるような指導の工夫が必要である。 ・ 思考・判断・表現において感性や創造力を豊かに働かせ発想する力が、個々の生徒によって差が生じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 制作における技術的な部分を細かく具体的な段階を追って身に着けられるよう指導する。 ・ 生徒作品の鑑賞や具体的な思考方法を複数提示し、個々に合った方法で取り組ませる工夫を行う。 ・ 作品に対する自分の考えを言葉でまとめ、思考力・表現力を育成する指導を行う。

教科名 保健体育

	昨年度の授業改善推進プランの内容や今年度の授業評価アンケートの内容、日々の授業等を踏まえた今年度の成果	今年度の授業評価アンケート、日々の授業等を踏まえた今年度の課題	今後に向けた改善策
一年	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業評価において、すべての項目で肯定的に回答する生徒が多かった。 授業に対して、安全に活動をするために規律を守ろうとする姿勢ができてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> どうやったらできるようになるか、考え工夫し調整を続ける力を伸ばす。 生徒の授業評価に置いて、「自分の考えを発表する機会が与えられているか」に対する回答が、他の項目と比較して肯定的な回答の割合が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き学習カードを用いて、指導をしていく。 運動量とのバランスを考えながら、生徒が学習したことを伝え共有する授業終わりに時間を設定する。
二年	<ul style="list-style-type: none"> 1年後期のアンケートと比較して、全質問項目において、肯定的な回答のパーセンテージが増えた。 授業に対して、意欲的に取り組み続けられる生徒が増えた。また、互いに応援し合う温かい空気がさらに増した。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業評価において、「授業のまとめ、5分の振り返りをしているか」、「自分の考えを発表する機会が与えられているか」という項目が、他の項目と比較すると、肯定的な回答の割合が低い。 「先生の授業は分かりやすいか」の問いに対して肯定的な回答が多いが、期末考査ではテストの成果が振るわない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の5分間の振り返りを確保するために、事前に授業の流れを明示・指示を明確に出し生徒たちが規律ある行動が取れるように授業を進る。 運動量とのバランスを考えながら、生徒が学習したことを伝え共有する授業終わりに時間を設定する。 期末考査前に保体資料ノートや教科書を学習する時間を設ける。
三年	<ul style="list-style-type: none"> 授業規律を守り、意欲的に取り組もうとする生徒が多い。また、リーダーシップを発揮する生徒もいる。 学習カードへの記入の質が高まってきた。 タブレットPCを効果的に活用することができた。 生徒の授業評価において、全ての項目でほぼ全ての生徒が肯定的な評価をしている。特に、「目標や流れを伝えているか」、「授業が楽しいか」、「授業がわかりやすいか」、「わかった、できたという達成感、満足感はあるか」、「頑張りを認めてくれているか」の項目が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の授業評価において、「授業のまとめ、5分の振り返りをしているか」、「自分の考えを発表する機会が与えられているか」という項目が、他の項目と比較すると、肯定的な回答の割合が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業をより時間の見通しをもって行い、5分の振り返りの時間をしっかりと確保する。その際、運動量の確保とのバランスを意識する。 ペアやグループでの学習の場面を計画的に取り入れ、自分の考えを伝える場面を意図的に設定する。

教科名 技術科

	昨年度の授業改善推進プランの内容や今年度の授業評価アンケートの内容、日々の授業等を踏まえた今年度の成果	今年度の授業評価アンケート、日々の授業等を踏まえた今年度の課題	今後に向けた改善策
一年	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験が少なく、技術や基本的な知識を身に付けていない生徒が多かったが、授業を通して身に付けさせることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 木材加工では、色々な工具の使い方を身につけ、日常生活のなかで不具合が出てきた木工製品の構造を理解し直すことが出来るなど、仕組みを知ることで再利用する考える力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目的と目標をはっきり明示し、説明と実習で内容をはっきりさせることで意欲的に取り組めるようにする。 実習中に細かな個別指導を行い、それぞれのレベルにあった指導をすることで技能を身に付けさせる。 知識を実際の作業を通して体験させることで基本的な知識と技能を身に付けさせる。
二年	<ul style="list-style-type: none"> 電気については生活の中であまり関心がなかったが、授業で生活との関係を説明することで理解させることができた。 作品を作りながら、基本的な知識や工具の使用の技能を身に付けさせることができた。 生物育成では、今年度はタブレットを使い、夏休み中の苗の状態を見ることができ、アドバイスも与えることができた。植物を育てながら、毎日の食事や生活環境などの大切さを理解させることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活の体験不足から、基本的なことが身に付いていない。特に工具の使い方などを身に付けさせる。 生物育成では、トマトの育成を通して、毎日の管理の大切さなどを身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近で使用している電化製品を多数提示しエネルギーの変換と再利用について考えられるようにする。 電化製品の仕組みなど、身近にある製品を作ることで理解をさせ、使用方法などを理解させる。 授業で学んでいることが日常生活で、多くのものに使用されていることを理解させることで、意欲的に取り組めるようにする。 教科書の知識だけでなく、体験的に身に付けさせるように例題を提示しながら理解させる。
三年	<ul style="list-style-type: none"> 情報については、関心がある。 生活の中にいろいろな情報があり、その中から適切な情報を選び利用する必要があることを理解させた。 情報のセキュリティやモラルについて、身に付けさせることができた。 いろいろなソフトウェアの使い方を理解した。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の中から正しい情報を選びだせる能力が身に付けさせる。 インターネットについて理解させる。 ゲームソフトは使えるが基本的なソフトの使い方を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの情報を検索させ、その中で正しい情報を選ばせる。 いろいろなソフトウェアについて説明をして実践させて理解させる。

令和4年度 昭島市立多摩辺中学校 授業改善推進プラン

教科名 家庭科

	昨年度の授業改善推進プランの内容や今年度の授業評価アンケートの内容、日々の授業等を踏まえた今年度の成果	今年度の授業評価アンケート、日々の授業等を踏まえた今年度の課題	今後に向けた改善策
一年	授業評価アンケートにおいて、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますかという質問に「はい」と答えた生徒は68.7%、「どちらかといえばはい」と答えた生徒は22.9%と、授業内において生徒が発表する機会を概ね与えられた。	授業評価アンケートにおいて、先生は授業のまとめ、5分間の振り返りをしてくれていますかという質問に「はい」と答えた生徒は41%と少ない。 授業の振り返りをしっかり5分間取れている日と、取れていない日があった。	毎回の授業で5分間振り返る時間を確保する。 また、2学期からは振り返りシートを用いて、授業の振り返りを行う。
二年	授業評価アンケートにおいて、先生は、授業の目標、一時間の流れを伝えてくれていますかという質問に「はい」と答えた生徒は63.4%、「どちらかといえばはい」と答えた生徒は30.5%と、授業の目標、一時間の流れを概ね伝えられていた。	授業評価アンケートにおいて、先生の授業はわかりやすいですかという質問に「はい」と答えた生徒は半分以上いるが、授業でわかった、できたという達成感や満足感があるかという質問に対して「はい」と答えた生徒は34.1%と少ない。 また、生徒の考え、活動、頑張りを認めてくれていますかという項目において、「はい」と答えた生徒も37.8%と少ない。	授業の残り5分間で自身の生活を振り返る場面をつくり、身近なものを感じるよう声掛けを行う。 また、1学期はフィードバックを行う課題をあまり出せなかったため、課題に対してフィードバックを行うようにする。
三年	授業規律を守り、意欲的に活動に取り組もうとする生徒が多い。 単元の目標を明示し、目標を意識した学習に取り組むことができている。	授業の流れを明示し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。 授業の振り返りを5分間取れている日と、取れていない日があった。	毎回の授業で5分間振り返る時間を確保する。 また、フォームを用いて前時の振り返りや授業の振り返りなどを行う。

教科名 英 語

	昨年度の授業改善推進プランの内容や今年度の授業評価アンケートの内容、日々の授業等を踏まえた今年度の成果	今年度の授業評価アンケート、日々の授業等を踏まえた今年度の課題	今後に向けた改善策
一年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の外国語活動により、アルファベットや発音に慣れ親しんでおり、発音練習や音読活動に意欲的に取り組む生徒が多い。 ・ 英語を聞き取って理解する力が高く、音声的な素地を小学校で身に付けている。 ・ 前期授業評価アンケートにおいても、生徒の9割以上が「授業が楽しい」「わかりやすい」と感じ、授業に意欲的に取り組んでいることがわかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単語を正しく書くことが課題である。英文を聞いて内容を理解したり、単語を正しく発音したりする力はあるが、単語の綴りに課題がある生徒が多い。 ・ また、日本語を見て基本的な英語に直訳することはできるが、自己表現をする応用的な力に乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英単語の発音と綴りを関連づけた指導を毎授業に取り入れる。また、定期的に書く課題を与え、英語の家庭学習習慣を定着させていく。 ・ 自己表現力をつけるために、英作文の課題に取り組む。正しく英文が書けるよう、生徒一人一人添削指導を定期的に行う。
二年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期末に行った授業アンケートでは、9割以上の生徒が「1時間の流れを伝えてくれる」と回答し、目標に向けて見通しをもてるよう示した成果と考える。 ・ 授業内で、積極的にインタビュー活動や教え合い活動に取り組んでいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出題範囲を細かく通知したテストにおいても学習の定着が不十分である。 ・ アンケートにおいて「楽しいですか」の質問に対し、5割近い生徒が「どちらかといえばはい」のため、授業に意欲的に取り組めていない生徒が多いと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プリントやワークに取り組んだ際に、わからなかった問題や間違えた問題が理解できるように、繰り返し解かせたり、共通するミスを全体で確認したりする。 ・ 授業の初めに既習事項を活用した会話文やQ&Aをペアで練習させ、表現力を高めると同時に、ペアで活動することで楽しく授業に取り組ませる。
三年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新出文法導入場面にて、わからない単語や表現が多少出てきても、推測する力がついてきて、「わからない」「なぜ英語で話すのか」など否定的な発言が減った。 ・ 前期授業評価アンケートにおいても、ほとんどの生徒が「授業が楽しい」と感じている。 ・ 単元ごとの英単語テストやスプリングコンテストを実施し、基礎学力定着を目指した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の振り返り時間がほとんどなく、前期授業評価アンケートにおいても、5分の振り返りをしてくれると答えた生徒は5割程度だった。 ・ 長文読解に慣れておらず、長い文章を見ただけで、諦めてしまう傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グーグルフォームを使った授業の振り返りを行い、更に授業で習ったことを定着できるようにする。 ・ 入試対策として、長文を解く時間を設け、解説が充実できるように授業作りを心がける。